

## 平戸市の将来像 検討資料

豊かな海・緑あふれる自然環境に恵まれた平戸市は、農林水産業を主幹産業とし、観光都市としても広くその名を知られています。また、その歴史は古く、オランダをはじめとした世界各国との交流が盛んに行われ、「西の都フィランド」と呼ばれるなど、国際性豊かな文化都市として、産業と自然環境の調和のとれた発展を遂げてきました。

今日、人口減、少子・高齢化の進行、産業の低迷などの諸問題によって、本市を取り巻く社会状況がより一層厳しくなる中、今後の平戸市としてのまちづくりを考えるにあたっては、本市の特長である「独自の歴史・郷土文化資源」、「恵まれた自然環境」、「交流を育む地域性」といった多彩で魅力ある地域資源を最大限に活用し、潜在的な無限の可能性を引き出すとともに、地域の新たな活力を生み育てることが重要となります。



### 【新市建設計画基本理念】

「大交流時代への新たな航海!  
たひだち

～海・しま・大地とひとが奏でる 活みなぎるまちづくり～  
をふまえ、ともに助け合いながら新たな船出、未来をめざす

## 平戸市の将来像（案） パターン 1

# ひとが輝く文化交流都市 平戸

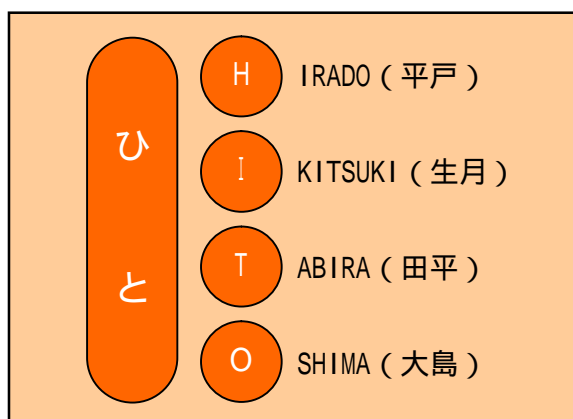
～ 海・しま・大地と人が奏でる 活みなぎるまちづくり ～

### 将来像に込める想い

本市は、恵まれた自然資源、独自の歴史・文化資源など、多彩で魅力ある資源を有しています。これらの資源を活かし、地域内外との交流活動の充実により新たな地域個性を創造し、活力を育んでいくことが望まれます。

人が働き、学び、遊び、助け合うことによって、生き生きと豊かな暮らしを営み、個性ある人が協働しまちづくりを行うことによって、人が輝く平戸市をめざします。

また、「ひと」は市の一体感を表しています。



### 「海」とは

新鮮な水産物などの豊かな恵みと、世界に開かれた貴重な歴史文化をもたらした、私たちの誇りである美しい「海」を表現しています。

### 「しま」・「大地」とは

豊かな自然の中で産業と文化を育み、潤いのある生活を支え、地域の人や訪れる人が安らげる癒しの場、交流の舞台である「しま・大地」を表現しています。

## 将来像（案）パターン2

# ひと（HITO）響きあう、魅力・活力のまち 平戸

～ 自然・歴史文化が生きる市民協働時代の船出 ～

### 将来像に込める想い

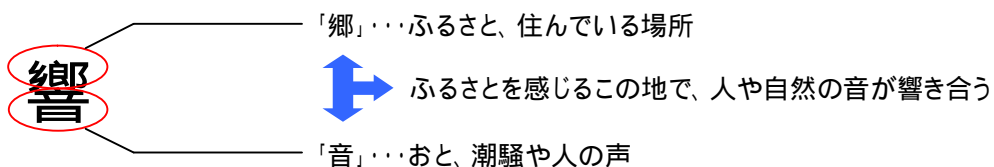
市民一人ひとりがまちづくりの主演として輝き、そして誰であっても豊かさや住みやすさを体感できるよう、ともに支え合っていく協働の精神・取り組みが必要不可欠なものであると考えられます。

これらを踏まえ、市の将来像を「ひと（HITO）響きあう、魅力・活力のまち 平戸 ～ 自然・歴史文化が生きる市民協働時代の船出～」と設定し、すべての市民が心豊かな生活を送ることができ、魅力・活力あふれる平戸市をめざします。

### 「ひと（HITO）」とは

平戸市のまちづくりの主演である「人」、つまり市民そのものを意味しています。また、市の構成地域（合併前の旧市町村）である「平戸（*Hirado*）」、「生月（*Ikitsuki*）」、「田平（*Tabira*）」、「大島（*Oshima*）」の頭文字から成っており、市の一体感を表現しています。アルファベットによる表記は国際性の豊かさも表しています。

### 「響きあう」とは



「響」という字は、「郷」と「音」という字から成り立っています。「郷」は「ふるさと」や「住んでいる場所」を、「音」は「潮・海風の音色」や「人々の声」を表しています。ふるさとを感じるこの地で、自然の音や人の声が響き合い、心豊かな生活を送ることのできるまちにしていきたいとの想いが込められています。

また、以下のような意味合いを持たせ、市民や地域がともに支え合い、協力し合いながら、新たなまちづくりに向かって取り組んでいく将来を表現しています。

響生（響き合い、ともに生きること。）	共生力を生む。）
響動（響き合い、ともに行動すること。）	団結力〔心〕を生む。）
響創（響き合い、ともに創造すること。）	創造力を生む。）
響感（響き合い、ともに感じること。）	共感、共鳴力を生む。）

### 「魅力」とは

平戸市の「歴史文化」、「自然環境」、「食」といった地域特性、つまり平戸「らしさ」を表現しています。市内にあふれる観光や文化の「素材」を活用し、新市としての魅力の再発見・創造をめざします。

### 「活力」とは

西日本一といわれる風力（風速、エネルギー）また、産業の充実や市民・地域の活気など、市の豊かさ・元気さ・意欲を表現しています。あわせて、平戸市の「魅力」を「活用」するための力といった意味合いも込められています。

## 平戸市の将来像（案） パターン3

心と心をつなぎ みんなで創り響きあう  
活力（にぎわい）と自然・歴史（やすらぎ）と  
交流（ふれあい）のあるまち ひらど

### 将来像に込める想い

平戸市がこれから進めていくまちづくりの根底には、すべての市民が、自分のふるさとである平戸を「愛せる」「誇りが持てる」「自慢できる」「住んでよかった」「ずっと暮らしたい」と思えるまちにしたいといった想いがあります。

人の基本はやはり心です。心と心のつながりが生きていくうえで最も大切なことであると考えます。ともに支え合い、市民・地域・行政が協働することによって、今以上にコミュニケーションがとれるようになり、心をつなぐことによって、すべての人が同じ方向性を持って、一体となってまちづくりを進めていけると考えます。

また、本市を訪れる人々に対し、心を込めておもてなしをすることによって、訪れる人が「やすらげる」「訪れてよかった」「もう一度訪れたい」と思える温もりのあるまちにしたいという想いも込められています。

#### 「活力（にぎわい）」とは

市民・地域の活気など、市の「豊かさ・元気さ・生き生き・意欲・やる気・希望・夢」、また、「産業の充実」、「協働によりコミュニティが再生していく様子」や「交流によるにぎわい」を表現しています。あわせて、平戸市の「魅力」を「活用」するための力といった意味合いも込められています。

#### 「自然・歴史（やすらぎ）」とは

平戸が持つ独自の青く美しい海、緑豊かな山、水平線に沈む夕陽といった雄大な「自然環境」、脈々と現代まで引き継がれ、ロマンを強く感じさせる壮大な「歴史文化」は、住んでいる人、また、訪れる人に対しても、「やすらぎ・癒し・潤い・安心・ゆとり」を与えてくれます。この全国に誇れる“本物”の資源は十分な可能性を秘めており、これを最大限に活かして「平戸らしさ」、「平戸ならではの」を積極的に押し出していく必要があります。また、新鮮な「食」をはじめとする地域の特性も“やすらぎ”を表現しています。

市内にあふれる歴史や文化の「本物」を活用し、体験してもらい、魅力の再発見・創造をめざします。

## 「交流（ふれあい）」とは

「人と人の交流」を表しており、交流によって心と心のふれあいを生み出したいといった思いが込められています。

合併後の速やかな一体感の醸成のため、市内の地域間の交流により、お互いを解りあうことが大切です。また、姉妹都市、友好都市のほか、歴史的なつながりのある海外との交流など、様々な“ふれあい”を表現しており、交流により“にぎわい”の創出をめざします。

また、訪れる人に対しては、心を込めたおもてなしにより交流を促進し、心のふれあいによって「また訪れたい」気持ちを持ってもらうなど、観光交流を盛んにする意味も込められています。

平戸が最も輝いていた時代、大航海時代にあったであろう3つの要素、「活力（にぎわい）」、「自然・歴史（やすらぎ）」、「交流（ふれあい）」が、バランスよく噛み合って融合したまちを想像し、「すべての人が すべての人によって すべての人のために 愛するふるさと“ひらど”」をみんなで創りあげるといった希望が、この将来像には込められています。

市民一人ひとりがまちづくりの主演として輝き、そしてすべての人が心の豊かさや暮らしやすさを実感できるよう、ともに支え合って、魅力的で活力があり、夢や希望のある、元気あふれる平戸市をめざします。

## 平戸市の将来像（案） パターン4

# いにしえの美しい恵みと いやしうるおう 観光交流都市 平戸

### 将来像に込める想い

平戸市は、国内でも海外へ近い立地条件（位置）にあります。

また、どこまでも続く大空（星空が眺められる）、青く澄み渡る海、緑あふれる大地など、豊かな自然環境にも恵まれています。この恵まれた自然環境のもと、農林水産業を主幹産業として生活が営まれてきました。

歴史は古く、オランダをはじめとした世界各国との交流が盛んに行われ、「西の都フィランド」と呼ばれるなど、異国情緒があふれるまちでもあります。

これらの恵みを受けて、観光都市としても知名度が高く、多くの観光客が訪れています。

このような、都市部が欲しがっても絶対に手に入らない、数々の平戸市独自の歴史的文化遺産や豊かな自然環境といった、多彩で魅力ある地域資源を最大限に活用し、潜在的な無限の可能性を引き出すとともに、地域の新たな活力を生み育てることが重要です。

【平戸といえば、「自然環境や景観」「歴史や文化・伝統」】

### 「いにしえ」とは

- ・ 古くからの歴史の深さ、偉大さ
- ・ 豊かな自然の一つである海を通じた、中国などのアジア、オランダをはじめとするヨーロッパの国々との海外交流、
- ・ 先人が培ってきた文化・伝統
- ・ 静かに重ねてきた生命、息吹であふれている時の流れ

等を表現しています。

## 「美しい恵み」とは

- ・海、山、大地、島、空などに代表される美しく雄大な自然環境
- ・自然と人の生活が生み出した景観
- ・自然からの恵みである新鮮な農林水産物、産業（特に農林水産業）
- ・世界に誇れる歴史遺産、文化遺産、伝統芸能など先人が築いてきた財産
- ・時の流れとともに、生活を静かに営んできた「ひと」と「ひと」との心のつながり

等を表現しています。

## 「いやし・うるおい」とは

- ・豊かな自然環境の恵みを受けて感じる心の癒し・潤い
- ・歴史の恵みを受けて感じる心の癒し・潤い
- ・平戸に住む人、訪れる人すべての人が懐かしさを覚え、感じる落ち着きと安らぎ
- ・おもてなしの心による癒し・潤い
- ・温泉や新鮮で多彩な食などで感じる癒し・潤い

等を表現しています。

これらすべての言葉が、“自然”と“歴史”から導き出される「平戸ならではの」「平戸らしさ」のキーワードです。基本理念に基づき、観光交流都市として国内外へ情報発信し、平戸市独自の地域資源の有効活用を図り、交流拡大によって元気を生み出すことが必要です。

“本物”の体験で平戸の魅力を満喫してもらい、交流が活発に行われることにより賑わいが生まれ、地域資源を生かした産業が息づき、活力を呼び、また、古（いにしえ）からの恵みの源である美しい地域資源と心の交流により、癒しと潤いを感じながら、市民がともに支えあい、生き生きと暮らせるまちをめざします。